

# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜工業高等学校（定時制課程）

学校番号 1803

## I 自己評価

<p>1 学校教育目標 指導の重点</p>	<p>(1)基礎・基本の確実な定着と「生きる力」の育成 生徒一人一人の実態をとらえ、基礎・基本の内容を確実に身に付けた人材の育成 (2)基本的生活習慣の確立 学習と勤労の両立を図り、基本的生活習慣を確実に身に付けた人材の育成 (3)工業技術科の活性化 ものづくりへの興味・関心を深め、様々な資格取得に対し積極的に挑戦する学習意欲をもった人材の育成</p>
---------------------------	---

<p>2 評価する領域・分野</p>	<p>◇ 学校経営</p>
<p>3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等</p>	<p>○保護者の評価は、本校の教育活動等全般に対して概ね好印象である。 (肯定的評価91.4%、否定的評価5.7%) 生徒の評価は肯定的評価が90.2%、否定的評価8.9%である。</p>
<p>4 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>◇教科指導（よくわかる授業、基礎基本の定着、授業改善） 生徒支援（基本的生活習慣、部活・生徒会の活性化、保護者連携）、 工業技術科活性化（実習指導と安全教育、資格取得、進路指導）</p>
<p>5 重点目標を達成するための校内における組織体制</p>	<p>・教務を主体とし全職員での授業参観及び研修会を実施する。 ・生徒指導と教務が連携し、全職員の共通理解を図り、授業規律、挨拶や集会指導等に取り組む。 ・入学当初から4年次までを見通した体系的なキャリア教育の充実。</p>

<p>6 目標の達成に必要な具体的な取組</p> <p>(1) 生徒の実態に即した、きめ細かな指導と対話型授業。 (2) 手作り実験教材、自作プリント、I T機器の活用。 (3) 部活動と生徒会活動の積極的な参加の促進。 (4) 少人数実習と安全教育。 (5) 資格に関する情報の提供と補習の実施 (6) 本人の希望、適性、能力に応じた進路指導の強化</p>	<p>7 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> <p>(1) 授業アンケートにおける満足度 (2) 保護者アンケートの肯定的意見の増加 (3) 皆勤者の増加、諸活動への積極的な参加 (4) 実習報告書の内容向上 (5) 資格取得の充実 (6) 就職内定等進路決定割合向上</p>
---	--

<p>8 取組状況・実践内容等</p>	<p>9 評価視点</p>	<p>10 評価</p>
<p>(1) 職員による公開授業を10月に実施し、積極的に授業改善を行う。 (2) 相談週間後の情報交換を通して、実態把握に努め学校運営に反映する。</p>	<p>(1) 職員が積極的に授業参観や研修に参加し、自らの授業を振り返り工夫して教材・教具・指導方法の改善がなされているか。 (2) 生徒情報交換が、生徒の多面的な理解に繋がり、教員と生徒との信頼関係の醸成になっているか。</p>	<p>(A) B C D A (B) C D</p>

<p>11 成果・課題</p>	<p>○授業アンケートにおいて、昨年にも増して良好な意見が多かった。 ●個別の授業によっては、課題がみられる。 ○ジュニアマイスター表彰において特別表彰者2名を輩出し、計算技術検定3級の合格者も昨年度と比較して大幅に増加した。 ●保護者アンケートにおいて、良好な評価を得ているため、今後も見える形で積極的に情報発信を行っていくことが必要である。</p>	<p>総合評価 A (B) C D</p>
-----------------	--	---------------------------

<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の活用を推進し、授業改善を進めることによって、学びの定着度を高めることを目指す。</li> <li>・特に1年生の5月連休明けの生活習慣の充実を図る。</li> <li>・生徒の多様な課題に対応するため、特に生徒とのコミュニケーションの取り方に対する研修研究を一層進める。</li> <li>・引き続きキャリア教育を充実し、資格取得を推進するなど、4年間を通して社会で通用する人材を育成する教育活動を実践する。</li> </ul>
---

【教務部】

2 評価する領域・分野	◇教科指導	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導に関しては、生徒、保護者ともに本校の取り組みに対して肯定的な評価の増加傾向がみられる。</li> <li>・学習指導関連の質問事項に関して、ほぼ9割が良い、または少し良いの評価の判定を下している。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に対して、授業の目的を明確に提示し、視聴覚機器を活用し、ユニバーサルデザインを用いるなど、授業の改善工夫に努める。</li> <li>・生徒が自分自身の学習課題を認識し、目標に向かって何をすべきかを意識して学習に取り組ませ、基礎・基本の定着を図る。</li> <li>・学習指導においても、思考力とともにコミュニケーション能力の着実な定着に努め、「生きる力」を養う。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒対象の授業アンケートを前期末に実施し、その結果から更なる授業改善を推進する。</li> <li>・授業参観を積極的に行って、気づいたこと・改善すべき点など情報を共有するとともに、資料にまとめて全職員で共通理解を図る。</li> <li>・各教科の枠を超えて指導方法について研究・工夫を行って、教示の方法や黒板の使用法、プリントの形式などにおいてより多くの個性化を図る。</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業の改善工夫、評価方法の改善 (2) 少人数制指導、対話型授業の推進 (3) 授業改善研修の推進	(1) 授業アンケート、職員自己評価、保護者の意見 (2) 基礎基本の定着度、生徒の意欲向上度 (3) 研修後に行う職員向けアンケートの実施	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
①情報機器活用による教材提示のあり方とそれに伴う授業の進め方の研究	①提示内容が分かりやすく、生徒の理解が深まったか	Ⓐ B C D
②個々の生徒への働きかけるによる学力に応じた丁寧な学習指導方法の確立	②個々の生徒に語りかけ、その能力に応じて指導しているか	A Ⓑ C D
③学習障がい傾向にある生徒の指導例などの情報収集とそれに基づいた実践	③教員間で情報交換し、その情報を有用なものとするか	A Ⓑ C D
11 成果・課題	<p>○昨年度に引き続き、10月に各学年の実習公開授業を中心に設定し、該当クラス以外を放課にして、全職員による授業参観を行った。多くの職員が見守る中でも生徒は工業の実習について真剣に取り組んでいた。「他教科の指導方法から学ぶことができた」という意見と共に、自分の授業とは異なる生徒の反応もあり、今後の指導に役立つ情報を多く得ることができた。</p> <p>○積極的に資格や検定に挑戦する生徒が増加した。4年次生2名が特別表彰、1名がジュニアマイスターゴールド、の表彰を受けた。個々の生徒の熱心な取り組みを重視した結果、これまでは受検したことがなかった検定（例：機械検査技能検定2級、潜水士）にも合格することができた。また、新たな受験として、宅建士への挑戦をした生徒もおり、今後の資格検定への挑戦も始まっている。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教室へのICT設備の導入が実施され、今後の一層の積極的活用と、その活用方法のあり方についての研究する姿勢が求められている。</li> <li>・資格取得に向けた指導方法を工夫・研究していくことにより、多様化した生徒の要望に答えることができる組織体制ができつつあり、その体制を利用して自己肯定感の向上をはかっていきたい。</li> </ul>	
	総合評価 A Ⓑ C D	

## 【生徒指導】

2	評価する領域・分野	◇ 生徒指導（教育相談）	
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>【現状】 特別支援教育的な配慮が必要な生徒がおり、指導の際には今まで以上に個々に応じた指導が必要になってきている。</p> <p>【アンケート】 生徒、保護者共にアンケートにおける指導部の取組への評価は8割以上の方々からよい評価を頂いている。今後は保護者との連携を深めると共に、生徒同士でも意識を高め合うことを目標としたい。</p>	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>○生徒に寄り添い、共感的な理解に徹し、自己指導能力を育てる。</p> <p>・生徒指導：将来の進路設計を見据え、基本的な生活習慣を身につけ、節度や規律のある生活ができる態度を育成する。</p> <p>・教育相談：生徒の日常のわずかな変化をとらえ、信頼と愛情に基づく共感的理解に徹し、適切な指導・助言により、たくましく生き抜く姿勢・態度を育てる。</p>	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・指導部内には、生徒指導係・教育相談係・特別活動係・保健厚生係をおき、校務内容の明確化を図る。	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	<p>(1) 授業規律の徹底と生活リズムの確立を支援する。</p> <p>(2) 挨拶励行や自転車運転マナーの向上を図る。</p> <p>(3) いじめ・迷惑調査や担任との生徒面談などの情報を蓄積し、生徒の日常の変化に気づく。</p>	<p>(1) 普段の授業態度や遅刻・中抜けなどの問題はないか。</p> <p>(2) 規則に対して意識を持った行動がとれるか。</p> <p>(3) 心のアンケートやいじめ・迷惑調査、面談情報の共有が教員間でできているか。</p>	
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
	<p>①基本的な生活習慣の育成を図るため、挨拶・遅刻指導を主とする登校指導を行う。</p> <p>②学校生活の全ての場面を通して生徒に規則と礼儀を指導する。</p> <p>③始業式や終業式における服装指導とともに集会における整列と聴講態度を育成する。</p> <p>④職員会議や連絡会の中で、いじめ・迷惑調査や担任との生徒面談などで出た生徒情報の共有を行う。</p>	<p>①規律ある生活習慣を育成することができたか。</p> <p>②生徒は規則と礼儀を意識した行動がとれたか。</p> <p>③始業式・終業式等での服装指導ができたか。</p> <p>④職員間で、生徒情報の交換等の連携がとれたか。</p>	<p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p>
11	成果・課題	<p>○授業規律がとれており、落ち着いた雰囲気での授業が行われている。</p> <p>○日頃の指導の影響もあり、大きな生徒指導上の問題は発生しなかった。</p> <p>○自転車運転マナー等の交通ルールは非常によく守られている。</p> <p>○マスクの装着指導や消毒指導などには生徒も協力的に取り組んでくれた。</p> <p>○心のアンケートやいじめアンケートなど、今年度新たに加わったアンケートに関するも全員からのアンケート回収を徹底することができた。</p> <p>●式典では服装・髪型への生徒の意識は高まっているが、その場しのぎの生徒も少数存在し、今後も意識を向上させる必要がある。</p> <p>●スクールカウンセラー等の活用実績がなかった。</p> <p>●コロナ禍の影響もあり、各種講話の実施ができなかった。</p>	
12	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に対する内面的な理解をさらに深め、外部とも協力して生徒理解を図る。</li> <li>・授業規律や時間の厳守など、教員、生徒間で統一認識することで、指導の効果を高める。</li> <li>・学校内のどの時間・どの場面においても生徒に呼びかけを行い、生徒の自己肯定感が持てるような、生徒理解と共感的立場に立った指導を行う。</li> <li>・生徒情報の共有をより密に、また全職員で共有できるような環境作りに努める。</li> </ul>		

## 【進路指導】

2	評価する領域・分野	◇ 進路指導		
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校での進路指導（進路情報の提供、生徒の可能性を引き出す指導、生徒の希望に沿った具体的な指導）について、生徒は8割、保護者は8割を超える「良い」という評価を受けることができた。</li> </ul>		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路検査（クレペリン検査、職業適性検査、職業レディネステスト）を通して、生徒に自分自身の特性を理解させる。</li> <li>各種進路検査の結果をもとに、保護者と共通理解を深めながら、生徒にとって適切な進路指導を行う。</li> <li>生徒が早期から適切な進路選択意識が持てるように、職業別進路ガイダンスや、職業体験会を設定する。</li> <li>就職試験、進学試験に対応できる面接指導、マナー指導、作文指導を充実させる。</li> </ul>		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業別進路ガイダンスを全学年で行う。4年を対象に、学習指導、面接指導、マナー指導を職員で連携して行う。</li> <li>クレペリン検査の結果をもとに、外部講師による職員研修会を行う。各種検査結果は職員間で共有し、職員の連携を深める。</li> </ul>		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各種検査を行い、生徒や保護者が生徒の特性を十分に理解し、職員は生徒個々に応じたきめ細やかな進路指導の参考とする。</li> <li>②職員研修を通して、検査結果を周知し、生徒理解や職員の連携を深めながら、適切な進路指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①各種検査結果を保護者懇談や進路相談、進路決定の場面で活用できたか。</li> <li>②生徒が自身の進路について、前よりも真剣に考えるようになったか。</li> <li>③生徒や保護者の納得がいく進路選択につながったのか。</li> </ul>		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>①担任が進路相談の場を多く持ち、本人の希望だけでなく、資質や家庭事情を考慮しながらの指導を心掛けた。</li> <li>②クレペリン検査(全学年)、職業適性検査(3年)と職業レディネステスト(2年)を実施した。</li> <li>④就職試験、進学試験の事前指導として、外部講師や職員による面接やマナーの指導を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①進路活動への取り組み状況や進路決定の満足度</li> <li>②進路に対する意識の向上</li> <li>③各種検査の活用とその効果</li> <li>④進学試験、就職試験に対する事前指導の取り組み</li> </ul>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>	
11	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種適性検査、面接指導等、進路について考える機会を設定し、キャリア教育の充実に努めることができた。</li> <li>○就職試験や進学試験を控えた生徒に、面接指導等を行い、進路意識を高めるとともに、試験に対する自信を付けさせることができた。</li> <li>●職業意識の乏しい生徒、学力不足やコミュニケーション不足のため自信が持てない生徒に、早い段階で希望と自信を持たせることが課題である。</li> <li>●コロナ禍でいくつかの進路行事を実施できなかった。</li> </ul>		
12	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な状況の生徒が在籍しているため、工業高校卒業という認識だけでの製造業への就職は困難な場合もある。早い段階から自己を見つめさせ、生徒に応じた進路指導の充実を目指していきたい。</li> <li>職員が生徒の適性や能力を適切に理解し、ハローワークや全日制進路指導部と連携を図りながら、幅広い視野に立った進路指導を推進していきたい。</li> <li>積極的に企業を訪問し、定時制で学ぶ生徒の理解を求めながら、求人開拓に力を入れていきたい。</li> <li>コロナ禍で実施できなかった進路行事を再開させ、進路意識を持たせたい。</li> </ul>		

## 【特別活動】

2	評価する領域・分野	◇ 生徒指導（特別活動）	
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<b>【現状】</b> 様々な学校行事を企画・運営する中で生徒会を中心に自主的・前向きに参加できる生徒が増えている。 部活動においてはほとんどの部で大会が中止になった。 <b>【アンケート結果】</b> 本校の学校行事は充実しているという項目で高い評価がついており、一定の支持を得ている。ボランティア活動の啓蒙については、少し低い結果がでている。	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体活動への参加を通して、集団の中で規律を遵守、実践し、行動力を育成する。</li> <li>・部活動への意欲的な参加と充実感の育成。</li> </ul>	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動、文化系行事、運動系行事の係分担</li> <li>・部活動顧問の複数配置</li> </ul>	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1) 生徒会執行部の自主的活動 (2) 部活動参加者同士の信頼と仲間づくり	(1) 自主的、計画性のある取り組みができたか。 (2) 部活動を楽しみ、仲間と共に目標に挑めたか。	
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
	①前期はコロナウイルス対策を万全にした状態で球技大会（バドミントン）を実施することができた。後期は芸術鑑賞会、卒業生を送る会等を成功させるため意欲的に活動した。 ②各行事の運営について生徒自らが十分話し合う時間を持ち、改善に向けて検討した。 ③部活動では、部員数が少なく活動が厳しい部も見られるが、それでも頑張りが見られる。今年度はコロナウイルスが猛威を振るい、ほとんどの大会が中止となってしまった。	①様々な生徒会行事を通し、個々の人間的な成長、人格の育成に寄与したか。 ②生徒会活動を自主的に取り組み活動できる適切な支援、環境づくりに努め、生徒の意欲を引き出すことができたか。 ③夜間定時制の部活動として時間、設備、予算などの環境整備に配慮できたか。 ④部活動の活性化が学校全体に活力をもたらし、個々の生活態度にも良い影響があるか。	A (B) C D (A) B C D A (B) C D A (B) C D
11	成果・課題 ○生徒会活動は、球技大会を春と夏の二度行っていたが今年度は1回しか実施できなかった。また11月には社会貢献活動として学校周辺の清掃活動を行うことができた。 ●夜間定時制の部活動においては、その活動時間に制約があり、放課後の活動時間の確保や生徒のコンディション調整も難しい。また、生徒数減少の影響から部活動数を減らすことも検討しなければならない。	総合評価 A (B) C D	
12	来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア精神の育成のため、学校全体として社会貢献活動を企画する。</li> <li>・部活動での日頃の練習・活動や競技会等を通して、成長させられるように働きかけていきたい。また部活動に参加する生徒の数を更に増やすために、組織のあり方も再考し、手厚い指導ができるようにしていきたい。</li> </ul>		

## 【保健厚生】

2	評価する領域・分野	◇ 健康と安全		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故など危険防止対策としての安全指導は良い。</li> <li>・非常変災時等における危機管理のマニュアルが確立できている。</li> <li>・安全指導については全体的に肯定的な評価が多い。</li> </ul>		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の身体の状態を把握し、健康で安全な学校生活を送れるよう、正しい知識と堅実な実践力を養う。</li> </ul>		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全指導体制を構築するため、組織的な取り組みを行う。</li> <li>・学校保健計画、学校安全計画の推進をはかるため各組織と連携する。</li> </ul>		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
	(1)毎時の実習・実験・実技における安全指導	(1) 実習・実験・実技時の事故を減らせたか		
	(2)日常の健康観察、給食時の手洗いの励行	(2) 各種健康診断、保健室来室時の健康チェック		
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
	①実習、実験、実技時の安全指導を徹底する。	①生徒が安全意識を持って実習、実験、実技ができるか。	A	Ⓑ C D
	②特に教室・実習室の環境美化に努め、快適な学習環境づくりに努める。	②さわやかな学習環境であるか。	Ⓐ	B C D
	③保健指導や「ほけんだより」等を通して健康に関する啓発を行う。	③保健室利用者数の変化	A	Ⓑ C D
	④「給食だより」等を通して正しい食生活の啓発を行う。	④給食喫食率の向上と手洗いの励行状況	A	Ⓑ C D
11	成果・課題	<p>○実習時の複数指導者体制を実施し、実習前の服装チェックやあいさつを始めきめ細かな安全指導が随所にできた。実験や実技でも年間を通じて継続的な指導ができた。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策により、登校時の十分な健康観察を行うとともに、正しい手洗い等の予防対策の指導を行い、感染者ゼロを継続中である。</p> <p>○睡眠や食事など、規則正しい生活リズムを身につけ、自ら体調管理ができるよう、保健だより・給食便りで情報発信をおこなった。</p> <p>○食物アレルギーをもつ生徒に対して、本人に面談を行い、安全・安心に学校生活を送れるように努めた。</p> <p>○偏食の生徒がみられ、特に野菜を残す生徒が多い。バランスのとれた食事についての意識を高め喫食率の更なる向上を目指したい。</p> <p>●健康観察の記録用紙記入とWEB入力を徹底させる。特に、休日も入力を忘れないように指導する。</p> <p>●教室内の消毒、換気の徹底を継続する。</p> <p>●健康診断後の結果に対して受診報告書の未提出があるので啓蒙する。</p>		
		総合評価 A Ⓑ C D		
12	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策のさらなる徹底と感染症予防の重要性を認識させる。</li> <li>・生徒自身が自分の身体と生活を見つめ、食事や睡眠を含めた基本的な生活習慣を身につけられるような指導を様々な場面で継続的に行う。</li> <li>・心身共に健康で充実した学校生活を送ることができるよう、担任・生徒指導・教育相談など組織間での情報交換を密に行い、連携して指導に当たる。</li> <li>・安全確保を最優先に考えた実習のあり方を研究し、専門科として安全教育・安全指導を徹底する。</li> </ul>		

## Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和3年1月29日

### 【意見・要望・評価等】

- ・コロナ禍で授業以外の行事等の実施が難しい中、その項目で評価が下がることは、致し方ないと思う。HPやSNSの活用は、デジタルネイティブな生徒たちには受け入れやすく、とても良いと思う。
- ・HP等での情報発信は、保護者が学校を知ることができるだけでなく、中学生が進路を決定する際の参考になり、それ以外の方々にも学校を知ってもらうことができるので、積極的に活用していくとよい。
- ・アンケート結果のポイント減を前向きに受け止め、今後の新型コロナウイルスとの付き合い方を考えていただきたい。
- ・コロナ禍の中でも充実した教育ができていることが、生徒及び保護者からのアンケート回答に数字として表れていると思う。